

親愛なるあなたへ

この手紙をだせばあなたに届く気がして、ペンを取りました。今机上にはあなたから貰ったラブレターの束があり読み返したところです。十円切手が貼られ何しろ五十六年間引き出しに眠ってましたから。

結婚してまもなく子宝に恵まれお父さんに、孫ができてからはじいちゃんと呼んでましたね。ラブレターの返信なんて青春時代に戻ったようで気恥ずかしい気分です。

遠くへ逝ってしまったのに身近に感じるのは何故でしょう。共に過ごした五十五年間には泣いたり怒ったりももちろん沢山の喜びも様々なことが今では総て懐かしく美しい思い出となりました。あなたが逝って半年余り、私は毎日仏壇の前で遺影に語りかけ読経するのが日課です。時には写経もします。心静かにあなたとの時間を共有できるからです。

夫婦って不思議ですね。増々愛が深まる感じですが。今更ながらあなたの誠実な生き方を尊敬しあなたに巡り合えた喜びに浸っています。今だに涙の涸れることはないですが、笑顔の方が安心してくれるかと思えば元気で外出しています。一年間一緒にしたランドゴルフは続けます。幸い良き仲間に恵まれ楽しいです。あなたに大輪の花を見せたくて菊作りにも精出しています。秋が楽しみですよ。子ども達も何かと寄り添ってくれ安心です。孫達の成長も楽しみです。いつかあなたに会える時みやげ話ができる様見守っています。

もうすぐ新盆です。精霊棚の瓜の馬茄子の牛は孫が作ってくれました。この馬に乗って帰ってきて下さい。大勢が集うので賑やかな話聞いて下さいね。あなたが命を懸けた意味は家族を集結させる偉大な力でした。穏やかな遺影の笑顔に見守られ私は幸せです。介護期間のあなたのか細いアリガトウの声が今も耳元に残っています。これからは私が有難うを言う番です。色褪せたラブレターの束はやっぱり引き出しに収めましょう。

やさしい春風 涼風 青嵐 澄みきった秋の風 木枯らし 台風にさえもあなたを感じる事ができます。千の風になって存分に奔走して下さい。私は両手を拵げその風を胸一杯吸い込んであなたと共に生きていきます。白い羽のポストが身近にあるのは嬉しいです。又お便りしますね。”深呼吸して踏青の一步かな”